

窓口担当者の悩み 共有しませんか？

EAP・ハラスメントチーム
チーム長
鈴木 里枝

窓口の相談員として相談者の話に耳を傾けていると、日々の業務の中で本当に頑張っている従業員の困りごとがダイレクトに伝わってきます。

彼らは会社の問題を解決してもらいたいと心から願う一方で、ご自身の匿名性を担保したい気持ちも強いのです。そういった場合、会社の担当者のみなさんが受け取る報告書は「すごく困ってるから解決して欲しい、でも情報は開示したくない」という内容になります。みなさん、「どう対応したら良いの？」と頭を悩まされると思います。こちらはほんの一例にすぎませんが、担当者のみなさんが頭を悩ませるのは、この部分ではないでしょうか。

この対応が絶対に正しいと言い切れる対応方法を探すことはほぼ不可能です。そうした中で、他の皆さんがどういった努力をされているのか、相談員の経験や知識も踏まえ、経験者・未経験者問わず、窓口の悩みを皆さんで共有できるような場所として今年12月に第3回、座談会の開催を予定しています。

様々なトピックで話し合えればと思いますので、是非ご参加ください。



ご担当者 & 従業員
どちらの悩みもお任せください

「〇〇ハラ」にならない コミュニケーション

EAP・ハラスメントチーム
サービスマネージャー
佐々木 淳子

近年では、「〇〇ハラ」という言葉が次々生み出されています。それらを見聞きし、「ハラスメントだと思われるらどうしよう」と不安になり、発言しづらく感じる人も少なくないのではないのでしょうか。

相談窓口にも、そういった不安から「部下に対しどう対応したらよいだろうか」という相談が入ることがあります。こうして他者と相談しつつ対応できればよいですが、「触らぬ神に祟りなし」と疎遠になるケースも起こりやすい社会であるように感じます。こうしたコミュニケーション不足により、従業員が信頼関係を築けず、結果としてモチベーションの低下や離職率に影響する可能性も低くはありません。

コミュニケーションを取ることを不安に感じるのは、“適切な”コミュニケーションがわからないことも一因だと思います。コミュニケーションを取る機会を増やすことも大切な働きかけですが、コミュニケーションの活性化を図るには、従業員同士が必要以上に敏感にならずに接することができるように、“適切な”コミュニケーションを学ぶ機会を作ることとても重要です。



SNS メンタル相談

日常の不安や悩みをスマートフォンからチャット形式で相談できます。心の専門家が対応、相談者に寄り添った丁寧なやり取りで、心理的な負担を減らしたり、問題を一緒に考えたりすることができます。詳細はダイヤル・サービス HP または担当営業までご相談ください。

<https://www.dsn.co.jp/corporation/snsmental/>



フリーランス新法による ハラスメント対応も

2024年11月に新たに施行される「特定受託事業者に係る取引の適正化等に関する法律」通称「フリーランス新法」をご存じですか？ 今回の新法はフリーランスとして働く方に対しての、「取引の適正化」と「就業環境の整備」が定められました。この中には「ハラスメント対策に係る体制の整備」として、窓口対応も求められています。ダイヤル・サービスではホットラインサービスの対象者に新たにフリーランスの方を追加いただくだけで、窓口での対応が可能となります。詳細については、営業担当までご相談ください。

SERVICE

サービスの
ご紹介

INFORMATION